

1 はじめに

はじめに

東京12チャンネル(現・テレビ東京)にて「なつかしの歌声」、日本テレビ系列にて「帰ってきた歌謡曲」といったなつメロ番組がテレビで毎週放送されていた昭和40年代当時、ラジオでも「なつメロ大行進」(ニッポン放送)、「芥川隆行の歌謡日本史」(文化放送)、「わが青春の歌」(ラジオ関東(現・アール・エフ・ラジオ日本))などのなつメロ番組が放送されていた。

その中でもコアななつメロファンに愛好されていたラジオ番組が「この歌あの人」である。全国のコアななつメロファンが集う「なつメロ愛好会」の会報に、司会を務めていた宇井昇が番組のことを複数回寄稿している他、聴取者からの感想も寄せられていた。ゲストに毎回様々な関係者を呼んで話を聞きながらオリジナルのSPレコードを流すという番組のスタイルが共感を呼んだからであろう。

同番組となつメロ愛好会との関係性は深く、宇井昇が会報に寄稿していたという事実の他にも、会長の福田俊二がゲスト出演(第69回～70回、第128回～129回、第179回)したり、番組の中で全国大会の開催が宣伝(第356回)されたこともあった。筆者自身なつメロ愛好会に所属しているが、同番組を聴取していた時の思い出を懐かしく聞かせてくれた会員の方も複数いらっしゃった。

また、「戦後の“なつメロ・ブーム”の引き金役」「“なつメロ”番組の第一号」と紹介されることもあった。番組終了5か月後の昭和52年9月3日付読売新聞朝刊の都民版にレコード誕生100年にちなんだ記事が掲載されているが、以下のように紹介されている。

戦後の“なつメロ・ブーム”の引き金役となったのは、ラジオ関東が、さる四十三年十月から放送を始めた三十分番組「この歌あの人」(週一回)。テレビの全盛時代に入り、斜陽化巻き返しのため、ヤング志向に走っていたラジオ界の中で、この番組だけは中年以上の聴取者をねらった。昭和十年代の流行歌を、LPではなく、七十八回転のSP盤で流し、曲の合間に、スタジオに読んだ作詞家や作曲家に、曲が生まれるまでの裏話や、当時の世相を語ってもらう趣向だったが、この企画は大ヒット、毎週百通を超えるファンレターがくるほどの人気を呼び、七年間(筆者注:実際は九年間)続いた。

同じく昭和52年10月22日付読売新聞朝刊の都民版においても、宇井昇のことが以下のように紹介されている。

宇井さんは、“なつメロ”番組の第一号として、ラジオ関東が、さる四十三年十月から放送を開始した「この歌あの人」(週一回)の司会者。この番組をきっかけに、“なつメロ・ブーム”が起き、全国各地に愛好会ができたが、(以下後略)

このように、昭和40年代のなつメロブームの一翼を担ったと言える当番組の実態を記録として残すことは、当該なつメロブームを考察する上で十分な意義があると思われる。

